掌毛通信



ムカゴニンジン

2022年11月21日 豊橋市文化財センター **豊橋市松葉町3丁目1** TEL: 0532-56-6060

No. 131

1、2022 年度の大規模植生回復作業を開始しました!

葦毛湿原の大規模植生回復作業は 2012 年度(2013 年 1 月)から開始し、今年で 11 年目になりました。今年度は 11 月 8 日(火)から作業を開始しました。作業は 11 月から 2023 年 3 月まで年末年始を除く毎週火曜日の $9\sim12$ 時、毎月第 3 日曜日の $9\sim12$ 時に行う予定です。

また、葦毛湿原と同様の植生回復作業を行っている愛知県指定天然記念物「豊橋のナガバノイシモチソウ自生地」では、11月から毎月第3火曜日の13~16時に作業を行う予定です。これ以外にも作業の進行状況を見ながら随時必要な作業を行う予定です。また、都合により日時を変更する場合がありますが、どちらの作業も公開しており、葦毛湿原では木道の上から、ナガバノイシモチソウ自生地はフェンスに囲まれているのでフェンス越しになりますが、自由に見学ができます。興味のある方は是非ご覧ください。

また、**葦毛湿原植生回復ボランティア**も募集してある方は**豊橋市文化財センター**(0532-56-6060)までご連絡下さい。

1)今年の作業予定

今年の作業は、 昨年と同様に湿地 中心部の遷移を部 分的に後退させる 実験地を設定する つもりです。



昨年の植生回復作業:地表面の礫の除去(2021年12月14日)

イヌノハナヒゲ

が優勢になると背の低い湿生植物が発芽できなくなることが分かったので、O地点ではイヌノハナヒゲを根から除去する実験区を広げるつもりです。A地点は日本に自生する4種のミミカキグサすべてが観察できますが、徐々に衰退しています。細かな礫が固くしまって堆積しており、この礫の間にミミカキグサの根が残っています。この上に藻類やヘドロ状の土が溜まっていることが衰退の原因と考えられるので、水をかけながら箒で履いて裸地化させます。

これ以外には、日照が改善することでネザサが優勢になっているところで、バックホーによりネザサの根を集中的に除去する作業を行う予定です。

2、2022 年度モニタリング報告ー5

葦毛湿原はもうすぐ花の季節が終わろうとしています。現在はホソバリンドウとウメバチソウが咲いています。ミミカキグサも小さくなって最後の花を咲かせています。

1) N地点実験区(ネザサ・コシダの根の除去実験)

N地点南東隅の木道脇にネザサ やコシダの根を除去した実験区を 設定し、作業前・後の状況を葦毛通 信 No. 123 で紹介したので、その後 の経過を報告します。

剥ぎ取った根の層は周囲に積み上げましたが、そこからハルリンドウが開花しました。根の中に含まれていた地下茎から発芽したものと思われます。

剥ぎ取ったところの地表面は礫が目立つ裸地になり南側(右写真 画面奥側)が低くなっているので、



作業直後(2022年3月23日)



ミミカキグサ群落作業

後1年目(2022年10月5日)

ここに土が流れてきて堆積しました。現在、裸地の部分には植物の発芽は見られませんが、 土が溜まったところは小さな池状になり、ミミカキグサの小さな群落が出現し開花しました(上左写真)。この他には、イグサの仲間がわずかに発芽しましたが、植物は少ない状態です。まだ1年目なので発芽する植物も少ない状態ですが、来年にはもっと多くの湿生植物がみられるようになると思います。

2) H地点

H地点は2018年にバックホーで伐根作業を行って裸地化しました。伐根後1・2年目の 状況は葦毛通信No.99で報告しました。1年目は地表面全体に礫が目立つ裸地で、植物もま ばらでしたが、2年目は上流部の水分の多いところを中心にイヌノハナヒゲが増えてきま した。中流部や下流部ではアブラガヤ等のカヤツリグサの仲間が出現し、ヌマガヤが所々 で出現しました。以下では、3・4年目について報告します。 右写真上は作業後3年目の2021年6月の状況です。画面右側は礫が目立つ裸地で、画面左側は水分が多く、多くの湿生植物が発芽しています。

画面奥の上流部ではイ ヌノハナヒゲが大きな群 落を作っていますが、全 体的に点々とヌマガヤが 出現しています。

右写真中・下は作業後 4年目の2022年10月の 状況です。上の6月の写 真と比較すると植物も枯 れた状態ですが、全体に ヌマガヤの大群落になり ました。上流部や中流部 でイヌノハナヒゲの群落 だったところもヌマガヤ に覆われています。礫が 目立つ裸地で植物の進出 が遅れていたところもヌ マガヤの群落になったの で、地表面は乾燥してい るように見えても、地下 水位は浅いところにある ようです。

右写真下はH地点下流 部で木道沿いにスイラン が多く咲いています。ス イランは増えて湿原各地 で分布を広げています。



H地点伐根作業後3年目(2021年6月15日)



H地点伐根作業後4年目(2022年10月5日)



H地点下流部伐根作業後4年目(2022年10月31日)

3) R地点⑥

R地点⑥は旧水田で、一年中水がある「冬水田んぼ」として再生したところです。葦毛通信No.113・114で1年目の状況を、No.124で2年目の春先の状況を報告しました。今回は2年目の秋の状況を報告します。

右写真上は⑥を南側から見たところでガマの大群落になな発すいます。4月にはまばらな発芽状態でした(No. 124)が今年は大きな群落になり池の奥が見えなくなってしまいました。さなくなってしまい、カゴ罠にもあまり、ついまい、カゴ民にもあまり、そこで、今年の作業で手前のガマをすべて除去しました。

右写真中はガマの群落の奥を見たところで植物は全くありません。昨年はここにフラスしませんで出現しまが、今年は全く発芽しまが、今年は全く発芽しまが、発芽しなかったのかはわれません。何十年も乾燥して状根したところの木を切って大きしたところのかもしたままにしたので、満たしたままにしたのかもしれません。

コナギは南側のガマの群落の中でわずかに開花しました(右写真下)。コナギの種子は埋まって一旦無酸素状態にならないと発芽しないようなので来年多くの個体が発芽するのかもしれません。

他の地点でも、植生がある程 度安定するのは3年目からの場 合が多くみられます。ここも来 年にはフラスコモやコナギが1 年目のように出現するのかもし れません。



R地点⑥旧水田(2022年11月8日)



R地点⑥旧水田(2022年10月18日)



ガマの間から開花したコナギ(2022年10月18日)